

農試第10141号
令和6年9月24日

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病害虫発生予察特殊報第1号の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します



連絡先 福井県農業試験場病害虫防除室
TEL 0776-54-9315
FAX 0776-54-5106
E-mail byogaichu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp



令和6年農作物病害虫発生予察特殊報第1号

モモヒメヨコバイの発生初確認

1 病害虫名 モモヒメヨコバイ

Singapora shinshana (Matsumura)

2 発生植物 ウメ

3 発生経過

令和6年9月、福井県嶺南地区のウメにおいて葉の吸汁被害が発生し、ヨコバイ類の寄生が確認されたため、名古屋植物防疫所伏木富山支所小松空港出張所に同定を依頼した結果、9月13日にモモヒメヨコバイと診断され、県内では初めての確認となった。

4 国内の発生状況

本種は、沖縄県での分布が確認されており、令和元年に和歌山県のウメで確認されて以降、現在まで27都府県で発生が確認されている。

5 形態

(1) 成虫は、体長3~3.5mmで、体色は黄緑色から緑色。幼虫は若齢の時は薄

い黄色で老齢になるにつれて濃くなり、成虫と同じ緑色になる。複眼は黒く頭頂部に特徴的な黒点がある。(写真1)

6 生態および被害

- (1) 詳しい生態は明らかにされていないが、成虫で越冬する可能性があり、1年に複数の世代が発生すると考えられる。幼虫・成虫が葉を吸汁することで加害し、葉がかすり状に白く脱色しやがて黄化する(写真2)。被害量が多いと早期落葉し、翌年の樹勢、収量への影響があると考えられる。被害葉の裏側には幼虫の白い脱皮殻が付着していることが多い(写真3)。
- (2) 国内ではウメ、モモ、ハナモモ等のバラ科の果樹や花木への加害が確認されており、海外ではナシ、リンゴ、ポポー等への加害も報告されている。

7 防除対策

- (1) 圃場内をよく見回り、発生・被害の早期発見に努め、初期発生の場合は速やかに寄生葉ごと除去しビニール袋に密封し死滅させるなど、圃場外へ持ち出して適切に処分する。
- (2) モモヒメヨコバイに登録のある薬剤で防除し、農薬使用の際は必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守する(表)。(農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)
- (3) 通常の薬剤防除を行っている生産園地では、本種による大きな被害はこれまでに確認されていないが、近くに管理不足の園地など増殖源となりそうな樹がある場合は、地域で声をかけあって面的な防除対策を行う。
- (4) 初発を見逃さないために、春先から注意して観察する。

8 参考写真



特徴的な黒点

写真1 モモヒメヨコバイ成虫



写真2 葉の黄化

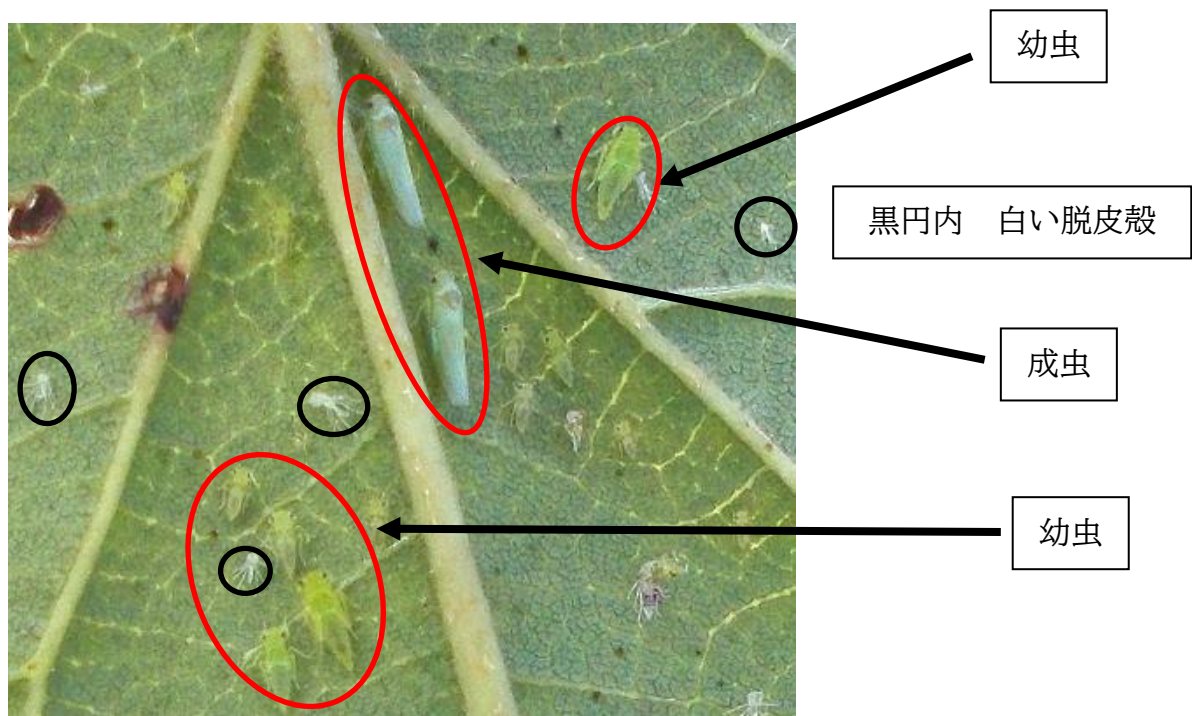


写真3 被害葉の裏側

表 モモヒメヨコバイに登録のある農薬（令和6年9月18日現在）

IRAC コード	適用作物	薬剤名	希釈倍数	散布液量 (L/10a)	使用時期	本剤の使用 回数
3A	うめ	アグロスリン水和剤	2000倍	200~700	収穫7日前まで	3回以内
3A	うめ	マブリック水和剤20	4000倍		収穫21日前まで	2回以内
3A	うめ	ロディー水和剤	2000倍		収穫7日前まで	3回以内
29	小粒核果類	ウララDF	2000倍		収穫7日前まで	2回以内
28	小粒核果類	テッパン液剤	2000倍		収穫前日まで	2回以内